



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



大理石で作られた開館当時の銘板（サイズ約 75 × 55cm）

当館は、今年で開館から70年を迎えます。福井復興博覧会の第二会場として開館した昭和27年（1952年）以来、福井市立郷土博物館、福井市立郷土自然科学博物館、福井市自然史博物館と名称を変えながら、様々な展示やイベントを通して郷土の自然の素晴らしさ、面白さ、そして大切さを伝えてきました。



当館マスコットキャラクター
「シジュウオ」

中面に関連記事があります。

石が語るふくい

令和4年7月16日(土) - 10月16日(日)

硬く耐久性があり、燃えたり腐ったりしない石という素材は、人々にとって非常に身近で重要な存在でした。石器に始まる石の利用は、^{かいびやく}鉱石資源や装飾、そして日常生活における道具など、形を変えながら現代まで続いています。越前開闢から1500年、人々の歴史は、常に石とともにあったのです。

当館では7月16日(土)から10月16日(日)の80日間、3つの「県の石」(下記参照)をはじめとする福井県内の岩石・鉱物、石を利用した道具や装飾品などを展示し、石が物語る福井の歴史を辿りました。

★ 福井県の「県の石」

福井の大地を構成する岩石、そしてそこから見つかる鉱物や化石は、その種類も、作られた時代も様々です。その中には、全国的にも珍しい特徴を持ったものがあります。

平成28年、福井県を代表する石として、笏谷石、自形自然砒、フクイラプトルの3つが「県の石」が選定されました。その特徴や、人々による利用について紹介しました。

また、福井の大地の基盤となっている岩石や、各時代で見られる化石なども展示しました。



自形自然砒
(コンペイトウ石)



シュードニューケニセラス
(アンモナイトの一種))

★ 人々と石

石を打ち割った石器から始まった石の利用は、時代が下るにつれて様々な加工が施されるようになり、また利用される石の種類も増えていきました。遺跡や古墳から出土した遺物、県内各地の鉱山から採掘された鉱石、地域の名を冠した石材とそれを用いた道具などの展示から、石と密接に関わり続けてきた福井の歴史を辿りました。



小和清水石の石臼



火打石と火打金

特別展の解説パンフレットを販売しています



- A4版
- 12ページ
- フルカラー
- 300円

当館受付で
お求めください

開館70周年記念展示

福井市自然史博物館は、昭和27年(1952年)に福井復興博覧会の第二会場として開館してから今年で70年となりました。これに合わせて、福井復興博覧会の記録映像のほか、開館当時の銘板やかつての博物館の写真などを展示しました。



昭和44年の博物館

70年に及ぶ福井県自然史標本の宝庫 ～足羽山のビジターセンター、白山の展望台としての役割～

吉澤 康暢 (元福井市自然史博物館特別館長)

当館は、足羽山（標高116.4m）のビジターセンター機能を備えた自然観察の拠点であり、県内の自然史のジオラマをはじめ、昭和27年以来、70年間、植物、キノコ、昆虫、動物剥製、貝類、鉱物、岩石、化石など約16万点に及ぶ標本類を所蔵している県内唯一の自然史博物館である。自慢の標本は、福井県産のトキ（写真：下左）やコウノトリの剥製、日本海側で採集されたムラサキガイの現存最古の標本、手取層群産のアンモナイトの化石、白亜紀足羽植物群のトウヨウハスの化石、福井県を代表する石材「笏谷石」のバリエーション、福井市赤谷産で世界的に有名なコンペイトウ状の鉱物“自然砒”などである。

当館屋上からは、日本百名山の白山（2702.1m）や荒島岳（1523.4m）を福井平野の東方に望むことができる。特に晩秋から早春にかけて、純白に雪化粧した白山の眺めは素晴らしく一見の価値がある（写真：下右）。

足羽山は、カタクリやサクラの開花時には、市街地の中にありながらギフチョウの吸蜜行動や産卵行動が観察できる貴重な場所でもある。また、多くの鳥類や哺乳類が生息しており、年間を通して観察を目的に多くの登山者が訪れ、当館は足羽山のビジターセンターとしての役割も担っている。

当館は戦後間もない昭和27年（1952年）7月20日に創立し、この度70年目の節目を迎えた。昭和20年の福井空襲、昭和23年の福井大震災と度重なる大災害の後、足羽山で開催された福井復興博覧会の第二会場のシンボルとして建設されたことから始まる。当時、福井市長であった熊谷三三郎氏は、市街地のどこからでも見える足羽山の頂に、青少年の夢や希望の象徴として、福井の自然史の標本類を満載し、足羽山のビジターセンター機能を備えた博物館をつくる構想を描いた。創立に際し、福井県初の博物館とあって、県内各地の各種標本が、当時の学校の先生方や生徒たちにより精力的に集められた。これらの標本類は、現在も採集時の記録と共に大切に保管されており、標本から当時の福井の自然環境を知ると同時に、現在の自然をひも解く鍵ともなっている。



昭和56年（1981年）に旧館の東側に新館が建設され、展示内容は全面リニューアルが行われた。昭和60年（1985年）の創立以来屋上の天文台では市民の天体観望会に活躍してきた天体望遠鏡も口径8インチにバージョンアップされ、接近時の火星のダストストームなどの観測に威力を発揮した。

さらに、当館は専門性の高い学芸員の採用と共に

充実してきた。現在は、植物、動物、昆虫、地質、天文と小さな博物館としてはほぼ全分野のスタッフがそろっている。この充実を機会に、足羽山の徹底した自然調査が行われた。調査のコンセプトは「みんなでつくる博物館の展示」で、学芸員はじめ、博物館協力員、博物館友の会員、市民のボランティアも巻き込み、3年間に及ぶ足羽山の自然の再調査と新しい標本の採集、標本整理を行った。その成果を披露する目的で、平成20年3月、1階のメイン展示として「足羽山自然大図鑑」がオープンした。各コーナーには採集したばかりの新しい標本類を満載した。ユニークな展示としては、足羽山の森の中で野生の動物の遺体が自然に分解していくようすを長期間記録した、オリジナルビデオ映像「タヌキが土に還るまで」の製作を行い、内外から高い評価を頂いた。

平成28年4月、JR福井駅に隣接した「ハピリン」5階に、福井市自然史博物館分館として高精細なドームシアターを備えた、天文・宇宙に特化した博物館「セーレンプラネット」がオープンした。この分館の開館に伴っては、展示企画、原稿作成、写真や原図の作成など、すべての準備を学芸員をはじめとする本館職員が担当した。

平成29年10月27日、鉄筋コンクリート造りの旧館建物は、震災・震災復興の記念碑的建造物との評価で、国指定登録有形文化財（建築物）に登録された。

今後当館は、福井の自然史標本の宝庫としての使命を果たしてまいりますので、市民の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。

左：昭和32年1月27日、福井市久喜津町日野川の河原で死体で拾得された福井県最後のトキのはく製（当館所蔵）

右：当館屋上から福井平野東方に望む、冬期の白山連峰



平成20年に当館で開催した特別展「ふくい大地の物語—地質景観百選—」で出版し、好評につき増刷し、販売中のガイドブック（当館受付にて1,200円）



開館当初

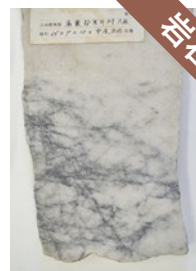
学芸員
イチ推し!

約70年前の 標本

晶質石灰岩(大理石)

採集日 1951年7月15日
採集地 小浜市大谷(旧宮川村)

大理石は、石灰岩が熱や圧力で変成したものです。小浜市～若狭町周辺で採られたものは若狭大理石と呼ばれ、石材に利用されました。



堆石

シベリアシメ

採集日 1951年11月2日
採集地 南越前町(旧河野村)

冬に見られるシメの、大陸に生息するタイプで、頭等が赤茶色っぽいのが特徴です。全国にこれまで数例しか記録がなく、非常に貴重な標本です。



動物

ヒシモドキ

採集日 1952年7月10日
採集地 福井市鶉地区(旧鶉村)

県内では数十年記録のない水草です。この種に限らず、日本産の水草は個体数の減少が著しいため、湿地を保全していく必要があります。



植物

ナゴヤサナエ

採集日 1956年9月6日
採集地 福井市足羽山

全国的に絶滅が心配されるトンボで、県内ではこれまでに2例しか採集例がありません。当時、足羽山の周辺にもナゴヤサナエが生息できるような環境があったことを物語る貴重な標本です。



昆虫

当館天文台で撮影した最初の火星写真

撮影日 1954年8月2日 20:49
撮影者 花山豪氏

火星の模様や影がわかります。当時は写真乾板(感光材が塗られたガラスの板)を使って撮影していました。



天文

新職員紹介



主幹
藤田 晴美
Harumi Fujita

異動してきて半年が経ちますが、毎日が驚きの連続でワクワク感が止まりません。訪れる皆さんにとっても、ワクワクする博物館になるよう学芸員さんたちと共に頑張ります。



学芸員(植物)
立松 和晃
Kazuaki Tatamatsu

太平洋側出身のため、福井の植生に慣れていません。しかし、他地域との違いから福井の面白さを紹介できることが自身の強みだと思います。よろしくお願いします。



非常勤職員
東谷 貴栄
Takae Higashitani

たまに訪れる足羽山に、珍しい生き物がたくさん生息していることを知り、驚きと感動でいっぱいです。皆さんも足羽山の魅力に触れてドキドキ、ワクワクしていただきたいと思います。



非常勤職員
川崎 英治
Eiji Kawasaki

5月から勤務がスタートしました。よろしくお願いいたします。動植物の生きる知恵に興味があり、どんな出会いと発見があるかとても楽しみにしています。

《あとがき》

今号では、開館70周年記念の第87回特別展「石が語るふくい」の見どころを紹介し、リレーエッセイや標本など当館開館70周年に関連する話題を特集しました。

学芸員として、収蔵庫に入り開館当初の標本を扱うと、標本やラベルから漂う古めかしさ(といっても標本は良好な状態で保管されています)、そしてその標本が最近ではめっきり見ることのできなくなった動物であったりすると、その希少性から70年という重厚な時の流れのを感じます。

これから先も、まずは30年後の開館100年に向けて、調査研究、資料の収集保管、展示、観察会などを通して、より多くの方々に福井の自然、そして当館の魅力を伝え続けていきたいと思っています。(出口)

《交通案内》

【電車】

- JR福井駅から徒歩30分
- 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩20分

【バス】

- 京福バス：清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登る)・不動山口バス停(蔵島神社登る) 各徒歩10分
- コミュニティバスすまいる：西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩10分

《ご利用案内》

開館時間 ● 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
休 館 日 ● 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌平日、
年末年始
入 館 料 ● 高校生以上100円(20名以上の団体は半額)
中学生以下、70歳以上、
障がい者および付添の方は無料

